

一日中小企業庁inぎふ

中小企業庁 岐阜県 中部経済産業局が主催、中小企業基盤整備機構中部支部が共催した中小企業向けのイベント「一日中小企業庁inぎふ」が10月27日、岐阜市のじゅうろくプラザで開かれた。鈴木正徳中小企業庁長官をはじめとした中小企業庁の幹部らが訪れ、中小企業の支援策を説明し、地元経済団体と意見交換した。地元と県外の中小企業によるパネルディスカッションも開催。モノづくりの苦労や思いを本音ベースで語り、会場を大いに沸かせた。

冒頭、鈴木正徳中小企業庁長官があいさつに立ち「日本を支えているのは中小企業だということがこの東日本大震災でよくわかった。皆さまに頑張っていただき、日本をもう一度復活させるために取り組んでいきたい」と表明した。



中小企業庁長官 鈴木 正徳氏

中小企業フォーラム

その後、鈴木長官が中小企業の現状の課題を示しながら支援策を紹介。資金繰り対策や海外展開、技術力強化・人材育成などの施策を2011年度第三次補正予算案に盛り込んでいる日本でのビジネスをしながら何でこんな時間がかかるのか、とみている」と訴えた。BCPの本質は「代替手段」だと指摘。提供し方と説明した。東日本大震災にあって、東日本大震災の対応について「海外からの見方は非常に厳しい。遅い。これだけ大きなリスクを抱えている日本でビジネスをしながら何でこんな時間がかかるのか、とみている」と訴えた。BCPの本質は「代替手段」だと指摘。提供し方と説明した。



要望書を受け取る鈴木長官⑤

意見交換会

中小企業にかかわる岐阜県の経済8団体は鈴木正徳中小企業庁長官と懇談し、中小企業支援の要望書を提出した。鈴木長官は「岐阜のモノづくりの集積を崩してはいけない。商店街による地域づくりなども重要」と答え、要望に理解を示した。

岐阜県中小企業団体中央会の辻正会長は「円高・デフレに耐え、雇用を守っている。廃業の半分以上が起業がない」と現状を説明。牛込達岐岐阜工業会会長は「新事業も海外展開も中小企業単独では難しい。連携支援を」と述べた。鈴木長官は「海外進出時を含め、特長に連携は重要。新分野・新技術に取り組む仕組み作りを一緒にやりたい」と答え

災害復旧 BCMに代替戦略を

日後に鳥根県の工場では、ソコンの出荷を再開した。福島が止まった時に鳥根でつくするためには何か準備できないかというのを事前に洗い出していた。とボーシントを強調した。BCMで取り組むべきこととして、災害などが発生した時に復旧でボルトを訴え、共同事業、開発・人材育成・商店街への助成、大型店への規制強化も盛り込んだ。

中小支援の要望書 提出

岐阜県中小企業団体中央会の辻正会長は「円高・デフレに耐え、雇用を守っている。廃業の半分以上が起業がない」と現状を説明。牛込達岐岐阜工業会会長は「新事業も海外展開も中小企業単独では難しい。連携支援を」と述べた。鈴木長官は「海外進出時を含め、特長に連携は重要。新分野・新技術に取り組む仕組み作りを一緒にやりたい」と答え

「お客さまの心を掴むモノづくり」

メイド・イン・ジャパン・プロジェクト社長 赤瀬 浩成氏



「モノ」「コト」伝える 地域のモノづくり元気に

中小企業基盤整備機構 岐阜県と包括協定を結中部支部が主催した中小機構フォーラムは「お客さまの心を掴むモノづくり」をテーマに実施。地域産品の販売支援やモノづくり企業のプロデュースを行う、メイド・イン・ジャパン・プロジェクトの赤瀬浩成社長が基調報告した。

中小機構フォーラム

続いて行われたパネルディスカッションでは、一になった。その後、とカネコ小兵衛陶所(岐阜県山形市)の伊藤紀史社長、杉山製作所(岐阜県山形市)の島田由美取締役部長、鶴岡シルク(山形県鶴岡市)の大和匡輔代表取締役、ブナコ漆器製造(青森県弘前市)の倉田昌直代表取締役、コーディネーター 赤瀬浩成氏

自社ブランド・新市場に照準

成長期にとりくりに日本部品売り上げがバブル崩壊後約10年で3分の1になったところから、今ある設備や技術を使い、下請け体質を抜け出したい(島田氏)という思いで、鉄製什器や家具に進出。ブランドを立ち上げ、請負界に通用するようにした(大和氏)と意気込みをみせた。倉田氏のブナコ漆器製造は山形の鶴岡が

日本人の感性・技術 未来へ

環境の変化の中での取り組みなどを本音で交えて紹介。今後の事業展開について、伊藤氏は「地域の土の特性や雰囲気など、自分たちの街の誇りだと思える形にもっていけばいい」と答え、技術を高めたり、いろいろな人と交流したりして新しいモノづくりに挑戦したいと抱負を述べた。



中小機構フォーラム・パネルディスカッション

倉田氏は「地域貢献するために自分たちが頑張らなければいけない」と思っている。国内市場が飽和状態になった場合は海外への進出を画策している。売り方さえ間違えなければ先は明るい」と自信をみせた。

出展募集中

スマートグリッド展2012内

植物工場・スマートアグリゾーン

スマートアグリとは？ 省・創エネと連携し、ITを活用することで効率化を図った次世代型農業。農業への知識や経験をITでサポートすることで新規参入を容易にし、今後の市場拡大が予想される。経産省が進める農商工連携での重点分野の一つ。

会期

2012年5月30日(水)～6月1日(金)

会場

東京ビッグサイト(東ホール)

主催

日刊工業新聞社

(財)社会開発研究センター

同時開催展

次世代自動車産業展2012

Products Innovation Fair(モノづくり革新展)

出展料金(消費税込)

1小間(間口2.97m×奥行2.97m×高さ2.7m)約9m²につき、下記の通りとします。

企業 336,000円

自治体・公的研究機関・他団体 262,500円

大学・高専 105,000円

製造業において今、「植物工場」が注目されています！

製造業の新規事業として、安心・安全な食材を安定生産できる植物工場がクローズアップされています。年々初期コストの低下が進み、またビジネスとして実用化の目途が立ち、今後製造業から新規参入が期待されます。

ITを農業に利用した「スマートアグリ」は製造業の農業進出を強くアシストし、こちらも農商工連携において重要な位置づけとなります。

「スマートグリッド」が植物工場の課題を解決します！

スマートグリッドをはじめとした省・創エネルギー技術が、植物工場の課題とされるランニングエネルギーの低減・効率利用に大きく寄与します。両技術を同時に展示することで、次世代型農業の姿を鮮明に打ち出していきたいと思います。

大きなビジネスチャンスがある異業種へのアプローチを、本ゾーンが全面的に支援致します。関係産業の皆様のご出展を、心よりお待ちしております。

出展対象

植物工場本体(完全人工光型・太陽光利用型)、植物工場構成部品(フレーム等)、養液栽培装置、照明設備(LED・蛍光灯ランプ・冷陰極ランプなど)、空調設備・システム、クリーンルーム設備、種苗・育苗装置、農業用ITシステム・ソフト・デバイス、流通・商社、食品加工機械、コンサルティング など

製造業をメインターゲットにした次世代型農業の展示会で新たなビジネスチャンスを!!

特別セミナー開催!!

「植物工場実用化に向けたコスト低減の具体策」

植物工場の実用化に向けたコスト低減、技術革新などの最新動向をご紹介しますと共に、植物工場に実際に展開している企業の経営者をお招きし、運営上のポイントを分かりやすくご説明致します。植物工場の事業化を目指す方々のご参加をお待ちしております。

開催概要

日時 2011年11月28日(月) 13:30~16:40

主催 (財)社会開発研究センター／日刊工業新聞社

会場 日刊工業新聞社大阪支社セミナー会場

定員 50名 参加費 18,900円

お申込・詳細はこちら <http://www.nikkan.co.jp/edu/semi/t11110928.html>にてご確認ください。お問合せ TEL:03-5644-7222

講師

(財)社会開発研究センター 理事／同センター植物工場・農商工専門委員会 委員長 高辻 正基氏

(株)植物工場開発 取締役 森 康裕氏 他2名

※予告なく変更となる際はご了承ください。

お問い合わせ

日刊工業新聞社 業務局 イベント事業部

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1

TEL 03-5644-7221 FAX 03-5641-8321

URL <http://www.nikkan.co.jp/eve/smart/>

E-mail j-event@media.nikkan.co.jp